

階級箆笥



文机



見台



角赤文箱  
桐散時終



その他の家具



柳中井義男作

角盆(木彫)  
菊地秀雄作



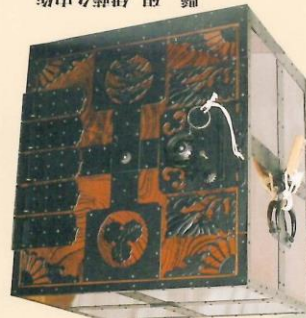
角盆(竹編形)  
菊地秀雄作

酒田光丘彫

菓子鉢  
齋藤八穂人(四代)作



懸硯 伊藤久内作



磯卓塗

佐々木武志作



船箆笥

伝統を継ぐ

電灯の笠



飾棚



飾棚



飾棚



電灯の笠



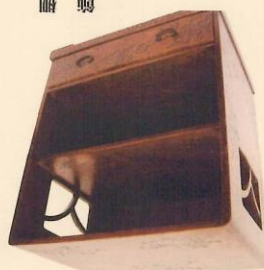
色紙掛



煙卓盆



飾棚



器局



器局



光丘彫

松

地元の素材を活かして

島中鳳山

竹

【第156回企画展示】開館30年記念館蔵品展(その2)

# 和家具展



帳面箆笥(明治40年頃)



帳面箆笥

開催期間 2月19日(木)~5月10日(日)  
 開館時間 午前9時~午後4時30分  
 休館日 12月~3月の月曜日。(月曜日が休日の場合は翌日) 4月から無休。  
 入館料 大人100円 / 児童・生徒・学生50円

酒田市立資料館 酒田市一番町8番16号 TEL 0234-24-6544  
 e-mail : sakata-city-museum@fork.ocn.ne.jp

# 開催にあたって

酒田は、最上川舟運と日本海海運を結ぶ湊として発展し、人々の往来とともに多様な文化をもたらしました。また、筆笥などの木工製作が興隆したのは、明治に入ってからと言われていますが、船筆笥などの製作技術もこのような海運等を通して酒田に入ってきたと考えられます。しかし、近年の社会や産業構造の変化は、家の構造や規格にも大きな影響を与え、いろいろな調度品で家屋内を飾ることが少なくなってきました。

当館は、昭和53年4月の開館以来、多くの皆様の善意に支えられて資料の収集に努めて参りました。本展では、開館30年記念館蔵品展(その2)として、この間に収集した資料の中から、庄内藩御貸金方御用筆笥や船筆笥をはじめ、帳筆笥、衣裳筆笥、飾棚、文机、光丘彫の器局、竹細工、茶筆笥、卓袱台、火鉢等の多様な和家具を取り上げ、酒田の精錬された木工技術の確かさと美しさを紹介し、これらを育んだ風土を探るとともに、現在の暮らしのありようを考えます。

本展開催にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

【展示協力者】 菊地秀雄氏、斎藤八惣八氏

## 西廻り航路と酒田の筆笥



庄内藩御貸金方御用筆笥



筆笥に視音開きの扉がつき、扉内側の左右に次のような銘文が記されている。  
 (右側扉) 明和四年 中村島衛門方義 御貸金方 原半右衛門安貞 田中連太一家 本間久三郎光正  
 (左側扉) 片桐七大夫 御用筆笥 田中嘉助 正月吉洋日加藤安右衛門 阿部保七  
 また、小箱には、「文化十二乙亥年 御貸金方米札入 三月吉洋日」と記されている。  
 庄内藩、御貸金方の書類や帳簿等を入れた。

## 船筆笥 懸硯



(佐渡小木)

## 帳箱



帳筆笥(背負紐付)



帳場戸棚(酒田)



大開帳場筆笥

## 衣裳筆笥



黒漆塗衣裳筆笥(酒田)



黒漆塗衣裳筆笥(鶴岡)



門付き衣裳筆笥

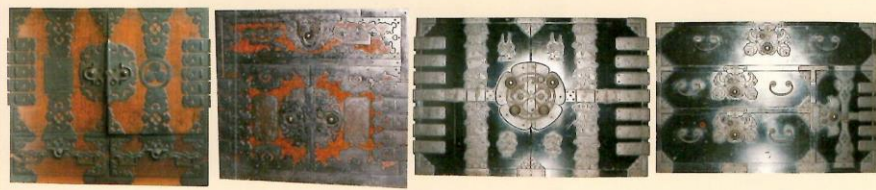
## 半櫃



茶の実型剛金具(佐渡小木)



(佐渡小木)



筆笥の金具

## 技を磨き、競い合った酒田の職人



飾棚 斎藤兼吉(如齋)作  
 パリ万国裝飾美術工芸博覧会受賞作品



文机 斎藤兼吉(如齋)作



角火鉢 斎藤兼吉(如齋)作



桐小棚 高橋徳五郎作



乾漆盆「春秋」

蒔絵盆「桜」

乾漆盆「蓮」

乾漆盆「小鳥の朝」



齋藤与惣右衛門の碑(泉流寺)



丸山卯吉の寿碑(海晏寺)



指物講習会(大正13年)



糸巻棚 斎藤正一(二世如齋)作

## 磯草塗

齋藤八惣八(三代)作



床置



飾棚